

令和5年度全国学力・学習状況調査結果について

山陽小野田市教育委員会

1 調査の目的

- ・ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ります。
- ・ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。
- ・ 上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。

2 調査の対象学年

小学校第6学年、中学校第3学年

3 調査の内容

- (1) 教科に関する調査（小学校は国語、算数 中学校は国語、数学、英語）
※ 中学校英語は4年ぶりに実施
- (2) 生活習慣や学校環境等に関する質問紙調査
 - ア 児童生徒に対する調査
 - イ 学校に対する調査

4 調査の方式

悉皆調査（調査の対象学年の全児童生徒を対象とした調査）

5 実施日

令和5年4月18日（火）

6 実施状況

学年	学校数	児童生徒数
小学校第6学年	11校	児童 511名
中学校第3学年	6校	生徒 442名

7 調査結果

- ・ 教科に関する調査では、平均正答数及び平均正答率について、小学校国語は全国を上回り、小学校算数及び中学校国語・数学・英語は全国を下回りました。
- ・ 小学校国語「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、中学校国語「話すこと・聞くこと」の領域については成果が見られました。
- ・ 小学校算数及び中学校数学「図形」、中学校数学「関数」、「データの活用」の領域に課題が見られました。
- ・ 中学校国語「書くこと」の領域に課題が見られました。

- ・ 中学校英語「聞くこと」、「読むこと」の領域のうち、特に「聞くこと」について課題が見られました。
- ・ 児童生徒に対する質問紙調査では、小・中学校とも「前年度受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」について、肯定的に回答した割合が全国と比べて高い結果となりました。
- ・ 児童生徒に対する質問紙調査では、小・中学校とも「将来の夢や目標をもっていますか」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」などの項目において、肯定的に回答した児童生徒の割合が全国と比べて高い結果となりました。

8 今回の結果を踏まえた重点的な取組

今回の調査結果の成果から、本市の児童生徒は自分の将来を見据え、夢や目標をもち、地域や社会をよりよくしたいという思いをもっていることが分かりました。また、学習においては、国語が得意な児童生徒が多く、「知識・技能」に一定の成果が見られました。

一方、課題としては、起床時刻等の生活リズムが十分整っていないことが分かりました。また、学習においては、算数、数学、英語の「知識・技能」、「思考・判断・表現」の力が十分身につけていないことが分かりました。

こうした課題を解決するために、市教育委員会としては、次の三点について重点的に取り組んでいきます。

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

- ・ 小学校算数及び中学校数学「図形」の課題改善に向けて、児童生徒が具体物を操作したり観察したりする体験的な学習活動を通して、図形の性質や関係性を主体的に考察できる授業改善を推進します。
- ・ 中学校数学「関数」の課題改善に向けて、小学校算数の「変化と関係」の領域から、伴って変わる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し、表現する活動を系統的に取り組んでいくことを推進します。
- ・ 中学校数学の「データの活用」の課題改善に向けて、身近な資料について、自分でデータ分布の傾向を読み取り分析するとともに、友達が分析した結果と比較・検討する活動を通じて、批判的に考察し判断できる活動を推進します。
- ・ 中学校国語「書くこと」の課題改善に向けて、国語科だけでなく、すべての教科や学習活動において、書くことの目的や伝えたい相手を意識した取組への転換を小・中学校において推進します。
- ・ 中学校英語「聞くこと」の課題改善に向けて、すべての中学校に導入しているデジタル教科書の効果的な活用等により、自然な口調で話される英語から概要や要点を聞き取る学習活動の充実を図ります。また、聞くことを話すことへとつなげるために、英会話学習アプリ「TerraTalk」を活用した家庭学習の充実を推進します。

- ・ 授業のみならず、様々な教育活動、家庭学習において児童生徒自身が学習を「見通し・実行・振り返り」のサイクルを通して、児童生徒の主体性や当事者意識の醸成を推進します。
- ・ 「探究」「創造」「表現」することの喜びを児童生徒が感じられるように、1人1台端末を活用した授業改善を推進します。

(2) 「個別最適な学び」の学習指導の改善・充実

- ・ 児童生徒の習熟度に応じた学習や、1人1台端末を活用して、主体的に自己のペースで自分に必要な学習課題を選択して取り組める学習方法を推進します。
- ・ 児童生徒がAIドリル等を活用して個々の課題に応じた補充学習を適切に行えるよう、引き続き、学校及び家庭において基礎学力の確実な定着を図ることができる学習環境の整備に努めます。

(3) 学校全体における組織的な取組の推進

- ・ 学力向上に成果が見られる学校への聞き取り調査を行い、学力向上担当者会議等においてその効果的な取組の共有を図ります。
- ・ 読書習慣の定着を図るため、市立図書館と学校図書室の統合システムを積極的に活用できる読書環境の整備を、より一層推進します。
- ・ 各校のICT教育担当者を集めた「ICT教育担当者会議」を開催し、授業における好事例や日常的な活用についての情報共有を図ります。
- ・ ICT支援員を各学校へ派遣し、授業における1人1台端末等のさらなる活用を支援することにより、学校全体におけるICTスキルの向上に努めます。
- ・ 児童生徒を交えた学力熟議を推進し、学校・家庭・地域におけるそれぞれの視点から、児童生徒の学びの支援の充実に努めます。